

## 地域の経済動向（令和4年1～3月期）

### 《道北（上川・留萌・宗谷）地域》

#### 1 経済動向に係る企業等の声（1～3月期）

##### 【建設業】

- ・公共事業が主な仕事だが、急激な原材料の価格高騰で設計価格とのバランスが取れない。発注時点と施工時期で価格が変動しているため、設計価格等の見直しを月単位で行ってほしい。（一般土木建築工事業）
- ・求人をかけても人が来ないし、近年は海外では日本が現地法人に相手されない状況もある。（電気通信・信号装置工事業、卸売業）
- ・コロナの影響はなかったが、旭川に大型物件の建設が少ない。建設業は冬期間さらに仕事が減少するため、売上増加は見込めない。仕入単価がどんどん上昇にあり、客単価が伸びない。（建築業）
- ・コロナの影響は特になし。工事受注量は昨年より10%程度増加しているが、資機材価格の高騰により利益率は低下している。（総合工事）
- ・木材価格が高止まりしている。また、各種建材等の値上げ、ボイラー等設備機器の不足等によるコスト増がある。（建築業）

##### 【製造業】

- ・コロナ再拡大で店舗オフィス什器の受注は大幅な減少の見込み。今年も厳しい経営が続く見込み。（家具・木材）
- ・資材高騰、品薄欠品が続出。受注から納期の延長をお願いしているが、修理等で売上を確保している。（金属窯業他）
- ・価格の上昇・品不足が広範囲にわたり厳しい状況。（機械鋼材）
- ・鉄系の値上がりは大分落ち着いてきたが、SUS材、アルミ材の値上がりが続いている。販売価格の改定も進めているが改定が追いつかない状況。コロナと資材高騰で物件の発注が止まっている、受注環境は先が見通せない。（金属窯業他）
- ・半導体不足とコロナの影響で新車の納期が延び、それに関わる添付品等の納入が遅れている。（その他）
- ・ウッドショックによる仕入原材料の単価上昇と運賃等の高騰により、製造原価率の上昇が昨年より著しく・値上げの実施に踏み切るなど、利益率の低下が懸念される。（製造業）
- ・ロシア産のエビを中国が買い占めている状態で、品薄になっているが、留萌管内も今季は、エビ漁が不良で品薄状態であることから、価格が上がっている。（水産加工業者）
- ・たらこを原料とした商品を取り扱っているが、日本では、アメリカ産半分、ロシア産半分の輸入となっている。全体的にアメリカ産にシフトしていることから、今後値上がりが予想される（水産加工会社）
- ・原油価格の値上がりによって包装などに使うプラスチック商品の価格は上がっている。（水産加工会社）
- ・コロナの影響で物産展等のイベントが中止となり業況は悪かった。オンラインでの販売も行っているが、オンラインは販売数量が少ないため経営改善には直結していない。（酪農、乳製品加工業）

##### 【卸売・小売業】

- ・組合の事務職も漁師も不足しており、人手不足による生産量の低下を懸念している。（小売業）
- ・コロナ再拡大による外食控えは想像以上で、この先も厳しい状況が続くと懸念される。（飲食）
- ・コロナの影響により来店客がまったくなくお手上げ状態。春物商品の入荷も有りメーカーへの支払いの為に資金繰りが大変である。売上が更にダウンした。（衣服身回品）
- ・原油市場が高値のまま推移していることや、石油製品全般において上昇傾向が続いているため、事業利益を圧迫し、厳しい状況。（卸売業）
- ・4月から値上げする商品も多く、販売に影響が出ると考えているが、まん延防止等重点措置が解除になったことを含め、夏に向けて人出・観光客の増加を期待。（小売業）

##### 【運輸業】

- ・地方の人口減少が全産業に大きく影響しており、外国人労働者の柔軟な受入体制が必要ではないか。（一般貨物自動車運送業）※
- ・燃料の高騰が経営に大きな影響を与えている。半導体などの不足による車両の納期が著しく遅れているため、古い車両を修理して使用しているが、費用が増大している。（一般貨物自動車運送業）
- ・1月中旬までは都市間、市内路線共に回復傾向にあったものの、1月下旬からの感染再々拡大やまん延防止施策による人の移動量減少、さらに燃料価格の高騰継続で業況悪化が大きい。（運送）

### 【サービス業】

- ・社員の高齢化が課題。(自動車整備業)
- ・原材料、消耗品等すべてにおいて値上げの要請があり、10%~18%で売上に転嫁させて頂き、再見積りをお願いしているところである。(印刷・出版)
- ・重油の高騰や食材仕入れの値上がりしたので、採算はさほど好転しない予測。(ホテル・旅館)
- ・前年比 20%の減少で中々前年比にたどり着かない。病院寝具は伸びている反面、ホテルリネンの観光事業が大幅に落ち込み、コロナの影響で宿泊者減少に伴い、ホテルリネンは 3 割の落ち込みである。(理美容・クリーニング)
- ・まん延防止等重点措置の延長もあり、営業活動の自粛を強いられる中、原油高騰による水道光熱費の増加、食材等の値上げによる仕入価格の上昇により、売り上げへの影響が懸念される。(サービス業)
- ・管内での感染拡大により新年会等の宴会はほぼ中止となり、売上が減少。(飲食業)
- ・環境負担を最小限に抑える廃電線の粉碎&選別リサイクルプラントを整備する経営革新計画を作成。(産業廃棄物処理業)

### 【関係機関・団体】

































- ・年明けからコロナ感染者が増加し、今までにない厳しい状況となっており、まん延防止等重点措置以降は、市内の大雪の被害も相まって消費経済は最悪の状況となっている。(商工会議所)
- ・管内での感染拡大により新年会等の宴会はほぼ中止となり、売上が減少。原油高や原材料の高騰もあり、事業者の経営状況はとても悪い。(商工会)
- ・まん延防止重点措置中、スナック等の飲食店関係は、ほとんどが休業していた。(商工会)
- ・近隣で感染者が出たとの情報に高齢者の外出控え、養護学校関連の利用者キャンセル等により、客数減少が大きい。(商工会)
- ・大雪により除雪があまり進まず、道路が狭くなっているため、バスや車が動かないことから人の動きが少ない。(商店街組合)
- ・時短営業等対象の飲食店では、休業や酒類提供なしでの売上減少により、支援金が入金になるまでの間、生活が大変苦しい状況となっている。(商工会)
- ・コロナによる影響もあるが、大雪により市民が車を出せない状況が続き飲食店への客足が伸びない状況だった(商工会議所)。
- ・令和 2 年度はコロナの影響で水産物全体の価格が低迷し、業績は例年より 3 割減で、令和 3 年度は、中国や台湾へ輸出するナマコ等の価格が平時並みに回復しているものの、国内向けの水産物(昆布等)は飲食店の休業・営業自粛等により需要が回復していない。(漁業協同組合)
- ・ホタテは中国やアメリカにも加工品を輸出しているが、単価が上がり、前年よりも売上が改善した。(漁業協同組合)
- ・加工工場の人手不足が大きな課題。コロナの影響により、今年 5 月に外国人技能実習生が入国できるか懸念しており、受け入れられなければ生産量が減り、減収が見込まれる。(漁業協同組合)
- ・コロナによる売上減少対策事業として、WEBサイトによるオンライン販売及び地域特産品開発に取り組む事業者に経営支援を実施したほか、事業復活支援金の申請指導を実施した。(商工会)

## 2 道内金融機関から見た地域景況感 (1～3月期)

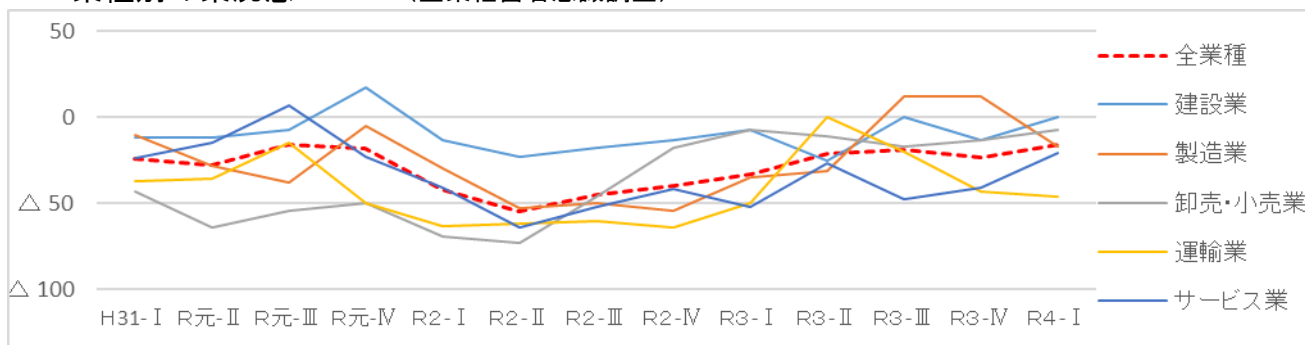
① 非常に好調 	② 好調 	③ やや好調 	④ 普通 	⑤ やや低調 	⑥ 低調 	⑦ 非常に低調 
---	--	--	--	--	--	---

【直近の景況感】	現在の景況感			次期見通し		
	総合	生産 動向	消費 動向	判断理由	方向感	判断理由
旭川信用金庫				前回調査時は、次回見通しとして好調と回答をする企業が多かったが、長引くコロナウイルスの影響や原材料・仕入価格の上昇等で、予想より景況感が上昇しなかった企業が多い結果となった。多くの企業で原材料・仕入価格の上昇が経営上の課題に上げられた。		今回が予想より不調な分、次期は今回よりは上昇するだろうとの見通しが多く回答された。現在の問題としては、コロナウイルスよりも原材料・仕入価格の上昇を上げる企業が多く、先の見通しが立たないとの回答が多かった。
北星信用金庫				コロナ禍の長期化、世界情勢不安に起因した原油・穀物等の高騰などの影響が当地方にも波及している。		コロナ動向から徐々に経済活動活性化を見込んでいたが、ここに来て各種値上がりによる消費停滞が懸念される。
留萌信用金庫				景気動向調査による業況 DI は、前期と比較して、△30.9 ポイント下降していることから「非常に低調」と判断した。「非常に低調」の要因は季節的要因と新型コロナウイルスが重なり、全業種で△18.6 ポイントから△44.4 ポイント下降しており、売上 DI と収益 DI を見ても全体的に減少しているとの回答が多く、「非常に低調」と判断した。		景気動向調査による時期予想 DI を見ると、売上 DI と収益 DI は上昇傾向にあるが、業況 DI を見ると全業種で 2.3 ポイントとほぼ横ばいの予想にある。
稚内信用金庫				当金庫で行っている景気動向調査によると、前年同月と比べ、売上額・収益ともに軟調な状況で、製造業のうち水産加工部門や土石・骨材部門では DI の大幅な改善が見られたものの、建設業・運輸業では資材・燃油の高騰などを背景に収益 DI が悪化したほか、サービス業もまん延防止等重点措置が実施されていたこともあり、依然低調なことから、総合を「低調」、生産動向を「普通」、消費動向を「低調」と判断した。		同調査によると、売上額 DI(14.1)、受注額 DI(23.5)、収益 DI(△5.8)で盛業期に向かう中、収益は物価上昇や原油高などによる影響を懸念し、ほぼ横ばいの状況で、特に運輸業は低調な見通しとなっている。一方、盛業期に向かう中、まん延防止等重点措置解除後への期待感から、多くの業種において売上高・受注額ともに改善方向を示していることから、「上昇傾向」の見通しとなった。

### 【景況感の推移】

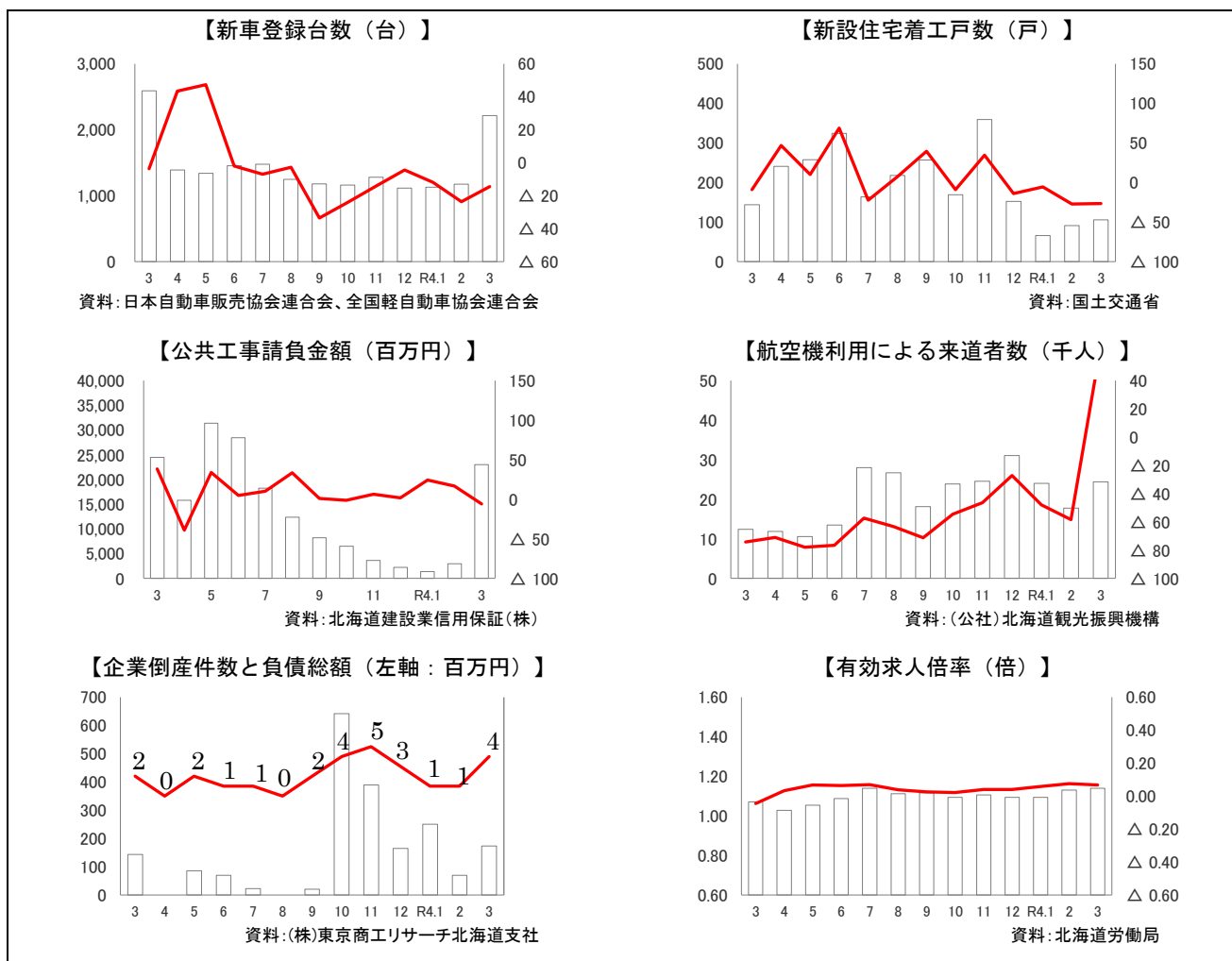
	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I
旭川信用金庫								
北星信用金庫								
留萌信用金庫								
稚内信用金庫								

### 3 業種別の業況感BSI（企業経営者意識調査）



	H31-I	R元-II	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I
全業種	△ 24	△ 28	△ 16	△ 18	△ 42	△ 55	△ 45	△ 40	△ 33	△ 21	△ 19	△ 23	△ 16
建設業	△ 12	△ 12	△ 7	17	△ 13	△ 23	△ 18	△ 13	△ 7	△ 25	0	△ 13	0
製造業	△ 10	△ 28	△ 38	△ 5	△ 30	△ 53	△ 50	△ 54	△ 35	△ 31	12	12	△ 17
卸売・小売業	△ 43	△ 64	△ 54	△ 50	△ 69	△ 73	△ 46	△ 18	△ 7	△ 11	△ 17	△ 13	△ 7
運輸業	△ 37	△ 36	△ 15	△ 50	△ 63	△ 62	△ 60	△ 64	△ 50	0	△ 20	△ 43	△ 46
サービス業	△ 24	△ 15	7	△ 23	△ 41	△ 64	△ 52	△ 42	△ 52	△ 27	△ 48	△ 41	△ 21

### 4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)